

# じよんのび通信



## ご挨拶

新潟県厚生連上越総合病院

おおほり たかし

総合診療科 大堀 高志

総合診療科の大堀と申します。2016年に総合診療医として当院に赴任し、今年で9年目となりました。循環器内科医であった私が総合診療医に転じた背景について、自己紹介も兼ねて2016年に寄稿しました。その後、人生最終段階に至りつつある高齢者が、自分の思いに沿った終末期をいかに送るか、治療の選択肢をどう考えるかの意思決定支援（Advanced care planningの内容で2017年と2019年に寄稿）として、院内を中心に啓蒙活動に取り組んで参りました。この活動も地域へと拡がり、一定の成果が出たものと思いますが、まだ道半ばです。

今回も原稿を依頼され、どのような内容で寄稿しようか考えましたが、最近私がよくお目にかかる患者さまのことについて書こうと思います。

今さら、と思うかもしれませんが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）についてです。すでに5類相当になって時間も経過し、巷では多少流行してもニュースで取り上げられることも少なくなりました。「ウィズコロナ」の時代になったと思います。確かに、高齢者であってもCOVID-19そのもので命を落とす方はほとんど見かけなくなりました。一方、高齢者がCOVID-19罹患後に体力が低下し、誤嚥性肺炎を生じたり、食事がとれなくなったりして紹介される方が増加しています。よく、COVID-19罹患により持病の悪化（例えば慢性心不全や慢性呼吸器疾患が悪化する）をきたして入院することが多いと報告されていますが、「老年症候群（加齢に伴い、生活の自立を妨げる症候の総称）」も立派な持病ととらえなければなりません。

私はそのような患者さまが入院する際には以下のように説明しています。COVID-19は致命的な病気ではなくなりましたが、まだまだ先であった寿命（旅立ち）を目の前に引き寄せてしまう病気です、と。

正確に統計を取ったわけではありませんが、体感では、上記のような背景で紹介入院した方の半数以上が、旅立ちを迎えているように思います。特に高齢者の近くで生活やお仕事をしている方は引き続き、感染対策に注意を払っていただきたいと思います。



# ご挨拶

かごしま みつる  
病院長 籠島 充

日頃は上越総合病院に多大なご理解、ご支援を賜りまして、ありがとうございます。みなさまにおかれましては、ますますご盛栄のことと存じます。

さて、このたび当院は地域医療支援病院を申請することといたしましたので、今回はそのことについてお伝えいたします。

地域医療支援病院は、医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有するものについて、都道府県知事が個別に承認をするものです。紹介患者に対する医療の提供（逆紹介も含む）、医療機器の共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修の実施などが主な機能です。

当院は近年診療機能の拡充に努め、多くの診療科を揃え、急性期病院としてほとんどの病態に専門的な対応ができる機能を有しています。一方では総合診療部門を充実させ、診断未確定、他疾患併存、高齢患者といった複雑な症例について、その背景まで含めた包括的な診療を行う体制も強化してきました。また、断らない救急を実践し、近年は糸魚川地域や妙高地域からの要請も受け入れ、本年度は救急車受入れ実績が4000台に達するペースです。

さらに、厚生連病院として、地域に向き合い、地域の課題に対応するという立場を貫き、たとえばコロナ対応では、重症患者の受け入れはもちろん、発熱外来や保健所のPCR検査などで、圏域で最大規模の実績をあげてまいりました。また、医療従事者育成にも注力し、臨床研修指導医講習会、NST療養指導士講習会、感染対策向上加算に関する講習会などを、地域に門戸を開いて開催しております。

昨年からは、紹介患者重点医療機関に指定されたことを機に、患者サポートセンターを拡充し、病病連携、病診連携を積極的に進め、患者紹介のみならず、医師派遣も含めて、積極的、能動的な協働をはかってまいりました。

このような結果として、紹介率、逆紹介率ともに急増し、地域医療支援病院の基準を満たすに至り、このたび申請することになった次第です。当院の責任が一層高まることとなりますが、誠実に求められる役割と向き合い、地域のみなさまのご期待に沿えるよう、努めてゆく所存です。先生方には登録医などのお願いをすることもあるかもしれませんが、ご理解、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



# 骨折予防の第一歩 骨密度測定を

整形外科 わたなべ きみまさ 渡部 公正



日頃、当院の診療にご協力いただきありがとうございます。  
整形外科では多くの脆弱性骨折治療を行っています。特に大腿骨近位部骨折は年々増加しており、当科では年間120件程の手術を行っています。術後は再骨折予防のための骨粗鬆症治療が必須であり、当院では骨粗鬆症委員会を中心に骨粗鬆症治療率100%を目指して取り組んでいます。この二次骨折予防の取り組みは非常に重要ですが、さらに重要なのは最初の脆弱性骨折を防ぐことです（一次骨折予防）。これには

内科を中心にすべての科の先生方の協力が必要です。日本人の骨粗鬆症有病者数は1590万人と推定されており、骨粗鬆症はcommon diseaseとして考える必要があります。慢性腎臓病、糖尿病、COPDなどの生活習慣病は骨強度を低下させ骨折リスクを上げることが明らかとなっています。eGFR 60未満、HbA1c 7.5以上、COPD（全例）では、脆弱性骨折リスクが高くなるエビデンスがあり、骨粗鬆症への介入、すなわち骨密度測定が必要です。またステロイド治療中、3cm以上の身長低下、両親の大腿骨近位部骨折の既往、乳癌や前立腺癌のホルモン治療中、これらに該当する場合も骨密度検査が必要と考えられ、骨粗鬆症治療を開始することで最初の脆弱性骨折発生リスクを大きく低下させることが可能となります。

このように様々な科を受診中の多くの患者さまが骨粗鬆症の評価と治療を必要としていますが、骨密度検査が行われている割合はまだまだ低いのが現状です。当院の骨粗鬆症委員会は、上越地域の脆弱性骨折の発生率低下と骨粗鬆症治療率の向上を目指した活動を5年程前から行っており、現在は毎週月曜日の午後に骨粗鬆症外来を開設しています。当院には日本骨粗鬆症学会認定の骨粗鬆症マネージャー5名と骨粗鬆症認定医が在籍しており、専門的薬物治療に加え、生活指導や栄養、運動指導を通じた包括的な骨粗鬆症治療を行う体制が整っています。骨密度検査の希望、骨粗鬆症治療薬の相談など、骨粗鬆症診療に関しお困りのことがあれば、気軽にご相談ください。骨粗鬆症外来の受診は、簡易な申込書のFAXのみで可能ですので是非ご利用ください（病院HPよりダウンロード可能です）。今後ともよろしく願いいたします。



# 新任医師のご紹介

かいづ ゆうき  
小児科 海津 勇希

趣味 キャンプ、写真撮影

上越地域のお子さんの健康に役立てられるよう尽力します。



さかきばら けんも  
外科 榊原 絹茂

趣味 テニス、ゲーム

10月からの勤務で、まだまだ慣れないことが多いですが、少しでも皆さんの役に立てるように頑張ります。



ささの ひろさと  
整形外科 笹野 寛哲

趣味 麻雀

新潟県に住むのは初めてでまだ慣れませんが、頑張ります。上越は寒いですね。



## 特定行為看護師 活動のご紹介

上越総合病院 看護師 佐藤留美子

当院では2019年より研修が開始され、現在12名の特定看護師が在籍しています。

また、今年度からはパッケージ研修（術中麻酔管理）も開始となり、院外からの受講者も研修が出来るようになりました。

当院の特定看護師は循環器科・総合診療科の医師より依頼された患者さまを対象に『循環動態に関わる薬剤・電解質輸液糖質輸液の調整』を行っています。

本来ならば医師が診察し指示が出てから行っていた治療内容の変更を、特定行為看護師が身体所見を取りアセスメントし、『医師が作成した手順書』の範囲内で行っています。

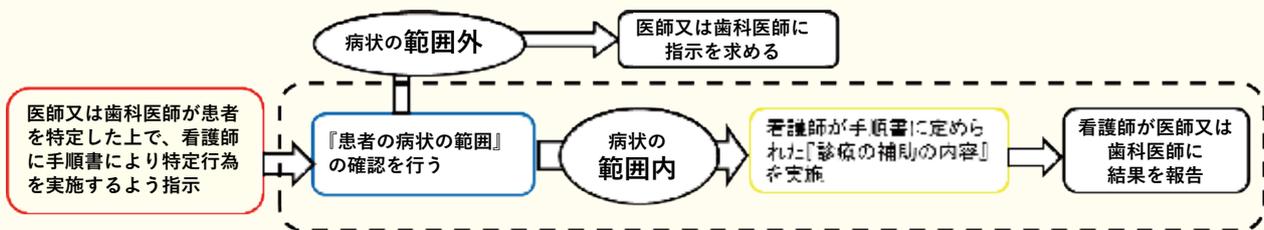
そのため、適切なタイミングで治療が行われ、患者さまや業務多忙な医師にとっても大きなメリットとなっています。

特定行為看護師制度の趣旨は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、さらなる急性期医療から在宅医療等の推進を図ることにあります。

当院の特定看護師は院内の看護レベルの向上のための活動を行うとともに地域医療を支えられるようチームで研鑽しています。

今後は地域と病院をつなぐ役割を担えるような活動をしていきたいと思っています。

【制度の対象となる診療の補助行為実施の流れ】（厚生労働省 HP より）



医療機関様／施設様からのご紹介・お問い合わせは

上越総合病院 患者サポートセンター

電話 025-524-3000 (代表)

FAX 025-524-3140 (直通) まで

